

人権問題に関する講演会

ダイバーシティ マネジメントの 見え隠れしている側面

異質を変革の資源として見れば出る閃き

令和4年9月5日[月] 14:00-15:30

オンライン開催

対象者 全教職員、学生及び一般の方
参加申込 お申し込み、参加方法の詳細はこちらのコードからご確認ください



講師

公立大学法人 国際教養大学
理事長・学長

モンテ・カセム氏

講師紹介

1947年スリランカ民主社会主義共和国 コロンボ生まれ。
スリランカ大学自然科学部建築学科卒業後、日本へ留学し東京大学大学院工学系研究科博士課程で都市工学を専攻に学ぶ。国際連合地域開発センター（UNCRD）主任研究員等を経て、1994年に立命館大学国際関係教授。2004年に立命館アジア太平洋大学学長、学校法人立命館副総長、2018年大学院大学至善館学長等を経て、2021年6月より公立大学法人国際教養大学理事長・学長に就任。専門は健康、環境、生命科学、都市工学、地域開発など。



講演内容

現在、ダイバーシティマネジメントが課題として注目されています。従来見過ごされてきた人材を活用することで、女性の社会的貢献・参画が意識されるようになり、ジェンダー問題が重要な社会的課題として表面化してきました。社会の幸福への貢献が軽視されているという人権的な視点と、人口減少の中で労働力として期待されているという功利主義的な視点の両方が、この言説を形成しているのです。しかし、日本では、単一言語による組織文化が形成する社会、コミュニティ、企業等に、言語的に多様な要素を受け入れることの価値について、客観的かつ包括的な分析が見落とされてきました。確かに、日本語は非漢字圏の者が短期間で習得するには非常に難しい言語です。同様に、日本の多くの社会組織は、バイリンガルあるいはマルチリンガル能力を業務に取り入れることに苦労しています。本講演会では、日本や海外での経験を踏まえ、日本の大学でどのような変革が起こり、世界の優秀な人材を惹きつけ、知の創生する共同体に取り込むことができるかを紹介します。

障がいのある方など、特別な配慮が必要な場合は8月18日(木)までにご連絡ください。

お問い合わせ：総務部総務課法規係（TEL 06-6879-7015）
主催：大阪大学人権問題委員会
共催：大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンター

